

## 看護療育

令和2年度は、年頭よりコロナウイルス騒動の始まりで一年中、コロナウイルスにおける不安と恐怖、それに伴う感染対策、日に日に変化する感染状況の中、1階病棟と2階病棟との病棟分離、面会制限(中止)、ショート利用制限などの現状のなか、感染備品の品不足もあり慌ただしく過ごすことが多く、スタッフも不安と恐怖、例にもれず使用する保育園にて使用を嫌がる風評被害も受け、精神的にも不安定な状況もあった。

研修会、講演会など集合教育の中止(密を避ける)それに伴って利用者の3大行事の縮小化、個別レクの中止など利用者様だけでなく携わるスタッフのモチベーションの低下も避けられない現実となって行った。頼みの綱の一本であった外国人実習生の話しも立ち消え、療育スタッフの人員低迷のままの一年であった。しかし、退職者も殆どなく利用者様の為に前向きに看護や療育業務に勤しむ姿があった。

常勤換算数も余裕はなかったが、不安もなく過ごせた一年となった。

そんな状況の中、業務へスタッフ全員尽力を尽くし大火なく実践できたと考える。

利用者数に関しては、毎月の入所判定会議にて常に前向きで利用者数の確保のため策を立てている。

## 薬剤課

### 【感染対策委員会】

月1回開催される。医師、看護師、療育、訓練課、栄養課、事務各課の代表と薬剤師により構成される。

活動内容は以下の通りである。

園長作成の感染症レポートにて院内感染の発生動向を早期に把握し、利用者及び職員への伝播を最小限にいとめる。

院内における感染防止マニュアルの作成及び改定を委員会の協議のもと行う。

今年度は新型コロナ感染対策マニュアルを作成。

医師(園長)による勉強会も開催時に行われ、職員全体でのスキルアップを図る。

また、感染症発生時は園長の召集による臨時感染対策委員会が開かれ対策の検討を行う。

ICTラウンドは月1回医師、看護部長、薬剤師が行う。

病棟、外来での感染対策が継続して行われているかを項目別に確認する。

今年度はコロナ対策に重点を置いている。

## 栄養課

食事提供において、昨年度に引き続き大きな事故もなく無事に終えることができた。厨房においては、厨房責任者の変更等があったが、人員体制及び運営については安定的に行われてきたと考える。

施設側においては、昨年度2月によりパート栄養士の退職に伴い、1名体制での対応を行ってきた。分担してきた業務の内容を精査し、大きな混乱なく遂行できたのではないかと思う。

### <反省・評価>

昨年度からの引継ぎとして大阪樟蔭女子大学との共同研究、手塚山大学、近畿大学の臨地実習の受け入れ等を計画していたが、新型コロナウイルスによる影響を受け、共同研究については、年度当初は、メール等でのやり取りを行ってきたが、実際の研究については、参画することができなかった。また、臨地実習については、受け入れを中止せざるを得ない状況にあり、実施することができなかった。共同研究及び臨地実習の受け入れについては、栄養課及び厨房のよい刺激となっており、新年度への再開を目指したいと考えている。

### 【給食委員会】

前年に引き続き、管理職を交えた委員会構成で毎月開催。味見食や聞取りによる嗜好調査をとおり、日常的に食事に対する意見をとりまとめることにより、きめ細かい対応ができたと考える。参加している各管理職の協力もあり、日々の給食提供や行事等の対応もスムーズに行うことができた。

厨房委託業者には毎回参加してもらうことにより、お互いの信頼関係を築くと共に、積極的な意見交換が出来たと感じる。次年度も引き続き、積極的な意見交換を行いより良い給食の提供に努めたい。

## 訓練課

PT PTの個別訓練では、利用者1人ずつの運動・姿勢面での問題点の把握や性格的特性、生活リズムの理解を行い、その上で治療プログラムを計画し、実行している。訓練内容としては、脊柱側彎や関節の変形・拘縮の進行防止・改善、呼吸機能や現在の移動能力の維持・改善を目的に、関節可動域訓練、ボイタ法、上田法、呼吸リハビリテーション、筋力増強、マッサージ、動作訓練を行っている。

病棟では、整形の澤井医師からの要請もあり、病棟スタッフや保護者の協力により、利用者のポジショニングの見直しや検討を行う事が出来た。

OT 利用者への理解を深めるために、OT内で症例の検討を行うことができた。引き続き、利用者への理解を深めていきたい。

クッキングなどのグループ訓練は、新型コロナウイルスの影響により、実施できなかった。しかし、2階病棟とOT合同で行う絵画グループについては、屋外で行うなどの感染予防対策を行い、数回実施できた。また、園芸は、個別訓練として実施し、ひまわりやチューリップなどを植える作業を各利用者が持つ能力や特性を活かすことができた。

ST 訓練において能動的に取り組むことを目標に、すべてを介助で行うのではなく、部分的に利用者の動きを引き出したり、少しの介助で誘導するなどの機会を増やすことで、成功体験や自分自身の動きに気付けるように関わってきた。

自助具に関しても、利用者の状態に合わせて病棟担当者や保護者と相談し、適宜提案や変更を行ってきた。

特別支援学校とも感染に気を付けながら、お互いの様子を見学させてもらったり、それぞれに合わせて授業内容を検討したりと、必要に応じて関わりを継続することができた。

## 地域支援

短期入所：新型コロナウイルスの感染流行を受け、短期入所利用にも制限をかけた一年であった。

その影響も大きくあり、利用数は前年度と比べて半数以上減少した。

合計件数は令和元年度729件・令和2年度328件となっている。

緊急事態宣言時には予約されていた方も利用を辞退される方がほとんどであった。以降の利用については例年よりも低水準で推移した。

利用のケースとしては、ひとり親世帯の介護負担軽減や、家族の病気や入院、家族の冠婚葬祭などに加え、本人がバルツァを忘れてしまう恐れがあるといったケースも見られた。

相談支援：令和2年4月より特定相談支援事業所を再開する運びとなる。それに伴い、外部事業所と契約している利用者様ご家族へ意向を聞き取ったうえで、計画相談事業契約を改めて結ばせてもらう事となる。元々他事業所とも、事業が再開したら戻すという約束で進めていたところがほとんどであったようだ。

## 寄付・助成金等

事業名	名称	金額	適用
ボランティア活動支援事業	政策医療振興財団	80,000円	電話交換機用3時間電池
寄付金	森田記念福祉財団	1,000,000円	感染用医療材料
イオンギフトカード	イオンイエローシート	98,600円	活動備品
施設整備費補助	奈良県	88,275,000円	空調・LED等設備更新
保育環境改善等事業費補助	奈良市	500,000円	クリーンパーテーション
ICT導入事業補助	奈良県	1,000,000円	Wi-Fi環境整備等
コロナ感染症緊急包括支援事業	奈良県	3,873,000円	酸素配管増設等
医療機関等感染拡大防止支援事業	奈良県	6,400,000円	感染対策

# 令和2年度事業報告書

## 特別養護老人ホームサール・ナート

### 1. 経営の概況及び社会情勢

今年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、すべての事業計画を大幅に変更せざる負えなかった。

人材確保・人材育成を最優先事項として掲げてはいたが、業務の大半が感染予防対策への取り組みとなり十分な取り組みが出来なかった。

また、他の重点課題として掲げていた、サービスの質の向上や稼働率向上等も十分な取り組みができず目標は達成できていない。しかし、お預かりしているご入居者・ご利用者様の命を守る為の感染予防を年度途中より、最重要課題として安心安全な施設づくりに全力を注いだ1年であった。

経営面においては、外国人技能実習生に係る人件費やそこにかかる諸経費、急な支出等があり、そこに新型コロナウイルス感染症の影響により、ショートステイ事業・デイサービス事業の稼働率が伸びず経営の圧迫の要因となってしまった。次年度は、感染対策を中心に安全・安心な施設づくりに取り組んでいながら無駄な支出を抑え、稼働率の向上を図りながら経営の安定に努めて行く。

### 2. 事業目標

#### I 特別養護老人ホーム サール・ナートの重点（目標）課題

##### (1) 多職種が話し合える場を重点的に持ち、チームケアの質の向上を高めるよう取り組む。

今年度、普段から多職種で話し合う機会を設けているが、日々の議論では結論に至らない場面もある。この場合はカンファレンスや担当者会議で日々のケア内容から病院受診の判断に至るまで結論を出すことができたと考える。ユニット会議、フロア会議でも課題を検討し、実践することができた。

しかし、新型コロナウイルスの影響により、家族様と直接会う機会が減り、ご意向の確認が電話連絡のみとなっている。面会が従来有形でなく、窓越しの面会で実施しており、昨年度よりも面会の機会も減っている中、家族様のご意向を十分確認できたか未知数である。家族様の思いを汲み取ることを今後も行って行く。

##### (2) 職員研修制度の構築

職員研修については感染予防対策を優先に業務に取り組んだ為、内部・外部研修ともにほとんど稼働できなかった。次年度については、オンラインでの研修の体制を整備し、積極的に職員研修に取り組んで行く。

### (3) . ユニットリーダー実地研修施設認定の実現

ユニット会議や担当者会議にて、利用者様一人一人のケアについて議論したり、24時間シートの活用や利用者様に馴染みのある品物をご自宅から持参したり、個人を尊重したケアは取り組んでいたが、研修の実施、実地施設に向けた具体的な取り組みは実施できなかったが、新型コロナウイルス感染症が落ち着くまでこの目標については、一旦保留とする。

### (4) . 外国人技能実習生の知識や技術の向上

今年度実施された、実技検定試験、JLPT 試験共に技能実習生全員合格。日々の業務とは別に勉強する時間を設け、疑問点は職員に聞くようにして解決を図っていた。実習生同士のトラブルもなく、生活環境も変化なく安定している。日本語の会話もゆっくりと話すことで、翻訳機も使用せず会話することができている。今後も昇級の為の技能検定や日本語の勉強への支援を行っていく。

## <栄養課>

### ① 栄養ケアマネジメントの取り組み

栄養ケアマネジメントを通して、ご入居者様の栄養状態の把握を行い、低栄養の改善に努めてきた。

今年度より、個々の基礎代謝量を算出し、目標栄養量、体格指数を策定する事で、多職種と円滑に栄養改善を図れた。

今後も継続して、より効果的な栄養管理を行い、生活の場としての支援に努める。

### ② 給食管理の取り組み

献立作成にあたって、現状の食事サービスの把握を行い、質を落とさずご入居者様のニーズにあった食事サービスに出来る様に取り組んできた。今後もコスト管理を怠らず変化に富んだ楽しんで喜んでもらえる食事サービスを提供できるように取り組んで行く。

普段食事摂取量の少ない方や、偏食がある方がたもおかわりをされる程人気の給食委託業者 魚国さん主催の薪窯ピザの提供が今年度で終了となるのが前年だが、それに代わる新たなサービスを検討していく。

季節感が有り、飽きが来ない様、変化に富んだ喜んで楽しみをもてる献立作成をしていきます。又、消費税増税に伴う食材料費の上昇を踏まえて、導入献立、食品の精査を行い、質を落とさずニーズにあった食事サービスを提供できる様に努める。

## II 短期入所生活介護（ショートステイ）の重点（目標）課題

### (1) サービスの質の向上を目指す。

今年度は新型コロナウイルス感染症予防を重点的に取り組み、安心してショートステイ

をご利用いただけるような感染対策に努めた。

(2) 年間稼働率 90%以上を目標とする。

今年度の稼働率は 80.85%と年度当初掲げていた稼働率 90%以上は達成できなかった。新型コロナウイルス感染症の影響もあるが、各居宅介護支援事業所等への営業活動が十分できていなかったことが原因であると考えられる。次年度はもっと積極的な営業活動を行い稼働率向上を図る。

### Ⅲ 通所介護（デイサービスセンター）の 重点(目標) 課題

今年度は、新型コロナウイルスの感染症が流行した為、感染予防に努めてのデイサービスセンターの運営となった。新型コロナウイルスの影響でデイサービスの利用を休止されるご利用者様もおり運営が不安定となった。そのなかでも、デイサービスを必要とすご利用者様もおりデイサービスの営業を継続することで、心身機能の向上等を図り日常生活のリズムをつけてご利用者様の在宅での生活の維持に繋げることができた。

#### 1. 重点事業目標

##### (1) 自立支援と在宅生活の維持の援助

ご利用者様が来所された時に個々に合わせたアクティビティ（脳トレ・塗り絵等）提案することができた。また、新規のご利用の際には、聞き取りを行いご利用時に聞き取った内容に沿ったアクティビティを提案できるようにした。今後の課題は、提案したアクティビティに対して希望しない方もいるため、希望しない方への対応を考えていかななくてはならない。今後も引き続き一人ひとりのご利用者様のニーズを知り援助につなげていくようにしていく。

- ・継続して在宅で生活を営むことのできるように、ADL の維持・向上を図るプログラムを行う。ご利用者様に合わせてプログラムを定期的に更新していくように努める。

新型コロナウイルスの為、外出自粛期間で家にいることが多くなっているご利用者様が多くいたため、運動する機会が減っていた。ADL 維持・向上を図るために、今年度は新たに、歩行訓練・立ち上がり訓練・ラジオ体操等体を動かすことを多く取り入れて筋力維持に努めるようにした。レクリエーションも感染予防を行いながら体を動かすプログラムを多く取り入れた。今後の課題は、感染症対策で物品の使いまわしをやめていたため、レクリエーションのプログラムがマンネリ化していた。今後、新しいプログラムを取り入れていけるように努めていく。

- ・ご利用者様、ご家族様の各種相談に応じ、内容により担当ケアマネジャーと連絡調整してご利用者様の在宅生活を支えていく。

デイサービスでのご利用者様の状態はこまめに担当ケアマネジャーへ伝えるように努めていた。情報を共有して相談があれば早期に動くようにして月初めには実績と一緒にデイでの様子をまとめて担当ケアマネジャーと情報を共有するためにFAXで送ることを継続して行った。本来なら、担当ケアマネジャーと会って報告するのがよいが、新型コロナウイルスの影響で事業所を回っての報告を差し控えた。今後も相談があった際は、早期に動き対応することで信頼関係を図るよう努めていく。

## (2) サービスの質の向上

- ・ご利用者様の身体的・精神的な状態を把握してその日の状態に合わせたサービスを提供する。

お迎え時に送迎の運転手よりその日のご利用者様の体調を確認して職員間で共有して対応することが出来た。また、新型コロナウイルスの影響もありご家族様の状態も含め聞き取りを行った。その日の状態を把握して職員間で共有することで早期に対応することもできた。今後も、職員間で情報を共有してその日のご利用者様の状態に合った援助を引き続き行っていく。

- ・ケアプランに沿った通所介護計画を作成しご利用者様及びご家族様の意向を把握し、よりよい援助ができるように努める。

ケアマネジャーからケアプランが届いたらそのプランに沿った通所介護計画書を作成してご利用者様・ご家族様に説明を行った。ご利用者様のニーズに合わせた計画書の作成を行い職員間で共有して統一した援助が出来るように努めることが出来たので引き続き行っていく。

- ・認知症に対する理解を深め、一人ひとりに合わせた対応を行う。また、介護技術の向上を行い安全に介助し安心してご利用して頂く。

認知症のご利用者様の割合が増えてきており、職員がマンツーマンで対応しないといけない日が増えていた。職員は、認知症のご利用者様への対応を学び経験することが必要である。今後の課題は、デイサービス職員であれば、だれでも認知症のご利用者様への対応が出来るスキルを身に付けていけるように職員育成をしていかななくてはならない。職員が援助の際に、困ったことがあれば、その場で解決できるように努めていけるように引き続き行っていく。

- ・ご家族様や他事業所との連携と職員間チームワークの強化に努める。

新型コロナウイルスの影響で担当者会議が行えないことが多くあったがこまめにご家族様や担当ケアマネジャーへ状態を伝えるようにしていた。また、他事業所と援助方法を合わせるためにも担当ケアマネジャーを通して情報を共有して多職種・他事業所が協同

して援助していけるように努めてきた。今後も、情報の共有に努めて連携を図りご利用者様にとってよい援助が出来るようにしていく。

### (3) 運営の安定

- ・地域の在宅高齢者のニーズを把握し、柔軟に対応して地域に必要とされるデイサービスとする。新規ご利用者様を増やす取り組みを継続して行っていく。

今年度の地域の状況が、認知症を患った男性のご利用者様（団塊の世代）が多くなっており、対応が難しいケースがみられていた。色々な症状に対応できるようにしていかななくてはいけなく職員の質の向上が必要となった。対応の振り返りを行い、今後の援助に生かしていけるようにしていく。今後、色々な症状や状況にあるご利用者様を受け入れて対応ができるデイサービスにしていかななくてはいけない。

- ・事業所内での役割を認識してショートステイや特養への入居へスムーズに行えるように、各部署との連携の強化を図る。

デイサービスを利用している方がショートステイ・特養に入居できるように各部署と連携していくことができた。デイサービスでは、比較的ADLが高いが利用されているが、入院等でADLが低下して自宅で生活が難しくなり、ショートステイを利用して特養に入居する流れとなっていた。

ショートステイ・特養があるデイサービスの強みでもあるので、この流れは今後も続けていく。

## 2. 稼働率目標 定員 29 名

稼働率 75%（平均 22 名）以上を目標に毎月営業活動を行う。

今年度は、稼働目標には及ばず、稼働率 44%（12.8 名）であった。コロナウイルスの影響を受けて稼働が下がってしまった。その中でも、平均月 2 名の新規ご利用者様を増やすことは出来ていた。今後も引き続き他事業と連携を図り新規利用者を増やしていく。

## 3. 年間行事予定

4 月：お花見（中止） 5 月：喫茶（中止） 6 月：買い物（中止） 7 月：夏祭り（中止）  
8 月：夏祭り（中止） 9 月：敬老（実施） 10 月：運動会（実施） 11 月：焼き芋（実施）  
12 月：望年会（実施） 1 月：初詣（中止） 2 月：節分（中止） 3 月：春祭り（中止）

今年の行事は、コロナウイルスの影響により、中止する行事が多くあった。その中でも規模を縮小し感染予防を行いながら少しでも楽しんで頂けるように行った行事もあった。今後も、コロナウイルス感染症の予防策を行いながら日々の行事・レクリエーションを行っていかなくてはいけない。

#### IV ケアプランセンターの重点(目標)課題

重度化予防・自立支援の視点に基づき、住み慣れた地域での暮らしを継続する為に必要な保健・医療・介護・福祉サービスの情報提供を公正中立に行い、サービスの調整や関係機関と連携し支援をする事を目標に事業を行った。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で退院前カンファレンスが中止になり写真や動画を使つての情報共有やサービス調整を行つたり、サービスが縮小・急な中止になつた事や、担当者会議・訪問等の通常業務に関しても感染予防・蔓延防止を理由としてご利用者様やご家族様の希望で実施できない等、今までにない支援の方法を検討したり急なサービスの調整を行う事もあつた。しかし、コロナ渦であっても支援を必要としているご利用者様やご家族様の暮らしは続いている。今後も不安を少しでも軽減し安心して必要なサービス利用をして頂けるようにする為にはどうしたらいいのかを考え、引き続き感染予防に努めながら関係機関と連携しさまざまな工夫をして必要な支援していく。

##### ① 安定した事業運営

要介護認定ご利用者様の新規契約数は15件で昨年度より9件減、要支援認定ご利用者様の新規委託件数は8件で7件減であつた。ケアプラン作成数は30件に届かない月もあり目標を達成する事ができなかった。支援終了は18人であり、ご逝去されたご利用者様が8人・施設入所は9人・引っ越し1人であつた。認定調査については、介護保険有効期間が1年から3年に延びたご利用者様もおられた為に実施数は11件であり、他市からの認定調査依頼は新型コロナウイルス感染症の感染予防の為に令和2年5月以降は受け付けを自粛している。今後は状況を見極めながら他市からの認定調査の依頼を受け付けるか検討していく。

安定した経営を目指す為に、支援の中で算定できる加算に関してはもれなく算定する事と特定事業所加算(A)を算定する。また、新規契約の毎月獲得とケアプラン作成数を30件以上維持する事を目標に、支援が終了し受け持ち人数に空きが出た時や施設入所などで支援終了の動きがありそうな時は積極的に営業活動を行っていく。

##### ② 各部署や関係機関との連携の強化

特別養護老人ホームに併設しているケアプランセンターの強みを生かし情報共有や連携を行つて、デイサービスやショートステイ、入居までの支援を行う事ができた。今後も強みを生かした支援を心掛けよりよいサービスを提供できるように、他の事業所での取り組みやご利用者様やご家族様からのご意見にも積極的に耳を傾け、たくさんの事業所の中から選んでいただける事業所となる為に共に努力をしていく。

##### ③ 介護支援専門員としての資質の向上

当事業所に対する苦情や相談は無かつたが、ご利用者様やご家族様の困りごとに迅速に



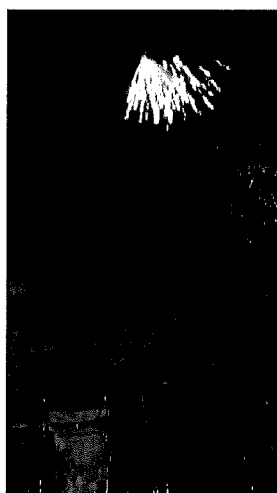
対応し分かりやすい言葉で説明を行い適切な情報提供やサービス調整ができているかを振り返る機会を積極的に作り苦情に至る前の段階で気づき必要に応じて対応していく。

今年度参加する事ができた、介護支援専門員更新研修（専門研修過程Ⅱ）、主任介護支援専門員更新に必要な研修に参加し得ることが出来た知識を生かし、看取り支援・難病支援・引っ越し等に伴う他府県事業所との情報共有や連携等、ご利用者様の暮らしとさまざまなニーズに対しての支援を行っていく。

来年度は特定事業所加算（A）を算定する予定である。地域包括支援センターをはじめ他の事業所とも関係を深めながら、必要に応じて連携できる関係性を構築し加算算定事業所としての責任と自覚をもち法令順守と質の高いケアマネジメント目指していく。

#### ④ 地域貢献活動

新型コロナウイルス感染症の影響で地域のイベント等は中止になり地域の方々との交流の機会は無くなったが、地域の方向けの福祉用具（車いす・ポータブルトイレ・歩行器・杖等）の無料一時貸出しは継続して行う事はできており喜んで頂ける事ができた。今後も地域の身近な相談窓口として、介護保険サービスの利用や介護報酬請求に至らない相談事にも真摯に対応し地域資源として利用して頂けるように包括支援センターや他の事業所とも連携に努めていく。



《感染対策を行いながらの夏の花火大会》

# 地域密着型介護老人福祉施設 サール・ナートかたの 令和 2 年度 事業報告

## 地域密着型特養

### 1) 特養入所の安定と継続

稼働率 96% 年間空床 391 日・入院による空室 259 日 計 650 日の空室があったが、緊急 SS 受入等で空室を 316 日活用できた。入退所は 8 名。申込が少ないことや加算要件の維持などでスムーズな入所が難しいが、居宅介護支援事業所へ情報発信し緊急 SS を積極的に受入したことで活用することができた。次年度も入所が困難となることが予想できるので今年度同様、引き続き情報発信し空室活用をする。

### 2) 人材確保・定着・育成

確保：入職者 6 名（常勤 3 名 非常勤 1 名）職員紹介制度での確保やハローワークからの採用もできた。  
定着：退職者 9 名（常勤 3 名 非常勤 7 名）看護師・デイ職員が採用できたが定着できなかった。理由は働き方ではなく人間関係による部分が大きく、関係性や働きがい作りに課題が残った。  
育成：内部研修を各ユニットで計画・実施したことで、個々の課題に取り組みチームケアを図れたが、各ユニット進め方で差があり課題が残った。外部研修はコロナ禍で機会を作れなかった。

### 3) 介護の取り組み

#### ①季節を感じる環境づくり

全体として行事で季節感を味わって頂く機会は少なかったが、ユニット毎で行事や設えで取り組めた。

#### ②生活の質の向上を図る

日頃のケアの見直しは、ご利用者様の視点で考えていくよう普段から意識して取り組めた。

#### ③多職種との協働

多職種との協働では、特に看護師と意見交換する機会は業務中が多く、ゆっくりと意見交換する機会をつくるのが課題として残った。

### 4) 栄養課の取り組み

#### ①栄養ケアマネジメントの取組

栄養ケアマネジメントを通して栄養状態の把握、低栄養の改善に努めた。個々の基礎代謝量を算出し目標栄養量、体格指数を策定し多職種と円滑に栄養改善を図れた。

#### ②給食管理の取組

ご利用者様のニーズ把握に努め、質を落とさず提供できるよう取り組み、コスト管理も怠らず努めた。給食会議ではメニューの見直しや行事食を企画、魚国主催の薪石釜ピザも好評であった（今期最後）

### 5) 医務の取り組み

①入居者様の健康管理：異常の早期発見に努め、治療の経過観察と評価を行い体調管理に務めた。

②職員の健康管理：職員健診の実施し検診医の指示のもと、指導や受診の勧め、治療を行った。

③多職種連携：多職種連携会議では情報共有を図れたが、ユニットとの意見交換には課題が残った。

④コスト意識：月 1 回の医療物品点検で管理し、対応できるものは生活用品を使い意識付けを行った。

### 6) 地域との連携

コロナ禍で元気アップ体操教室や出前講座などの活動はできず、また運営推進会議も中止していた期間があり地域との交流する機会が作れなかった。

## 短期入所生活介護

### ① 様々なニーズに応える環境整備

緊急受入で必要な医療情報・ケア情報を収集・整理し準備することで多様なニーズに応えられた。また急な受入後に職員から得られた情報や課題に対しても速やかに応えることで安心した受入環境を目指した。十分ではなく課題は残るが職員が安心して受け入れられる体制整備を引き続き図っていく。

### ② 質の向上

施設行事が縮小され、ユニット行事の実施も少なく取組は足りなかった。日頃の体操や塗り絵などの作業や回想法 DVD の活用はできた。利用中の様子をご家族様・担当 CM へ報告し利用日数が多い方には施設側からの具体的な介助方法や支援の導入を提案するなど質の向上に努められたが、長期利用以外のご利用者様への支援と、そのご家族様・担当 CM との情報共有などは足りず課題が残った。

### ③ 年間稼働率 90%を目指す

年間稼働率 90%で目標を達成できた。特養と連携し空床利用することで達成できたが SS ユニットとしては 80%程の稼働。緊急での受入を確実にしてきた結果は出たが、新規利用者が増える働きかけや、定期利用の方が増えていく取組など SS ユニットの強みを見直し稼働していくことが課題として残った。

## 地域密着型通所介護

### 1) 地域との繋がりづくり

コロナ禍で様々な場所における密を避ける取組を求められる中、地域との関わる機会は作れなかった。運営推進会議を通して地域やご家族様との繋がり維持できた。次年度も同様の状況が予想される中、地域との繋がる機会作り・方法が課題として残った。

### 2) 自立支援に向けた取り組み

密を避ける取組の結果、個人の状態に合わせた支援の機会が多く作れた。基盤である「自己選択・自己決定・自己管理」を組み込み実施することに成功。実施状況や結果をご家族様に報告することもできた。

### 3) 認知症の方への特化した環境設定

自立支援に向け個人の状態に合わせた支援をすることで認知症に対しても状態変化をより把握しやすくなりケアの見直しを迅速にできた。変化を把握しご家族様や担当 CM と共有することで様々な場面を想定した対策を立てることができた。

### 4) 家族支援・ケアマネジャーとの連携と支援

行事の中止や変更が相次ぎ、ご家族様との交流する機会は少なかったが、個別ケアの取組からきめ細かい報告や相談をすることができ信頼関係が途切れないように関わりは作れた。次年度も同様の状況が予想される中、行事の取組だけでなく送迎時など日頃からご家族様の様子や CM からの情報に注意し職員間で共有することを継続していく。

### 5) 年間稼働率 80%目標

年間稼働率 73%で目標達成できなかった。コロナ禍でご利用者様の利用自粛や入所などでサービス中止等の影響も出たと考えられる。また職員定着が出来ていないことが営業活動への一番の影響となっており次年度はコロナ禍での取組と職員定着の取組を確立し、新規利用者の獲得、営業活動に繋げる

# 令和2年度 枚方市地域包括支援センター サール・ナート事業報告

## 基本方針

今年度は、計画通り業務を遂行し、第5圏域の地域包括ケアシステム構築を新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を徹底しながら進める事が出来た。職員の定着による最良のチームワークをもったチームを確立できた結果、地域に信頼される地域包括支援センターを構築できた。この信頼をこれらも継続していただけるように、次年度についても引き続き地域の方々の為に全力で業務遂行に努める。

## 事業目標

### 1. 包括的支援事業評価報告

年度当初、計画にあげていた予定事業については新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が大きく概ね6割程度の実施にとどまった。PDCA サイクルで事業評価しながら積み上げた既存のネットワークについては、文書、電話、メール等代替手段で維持に努め、コロナ禍でこそ必要な事業を検討し目標達成に努めた。

オンライン会議などは事業所内の環境が整っており、一部付属品を購入するだけで遅滞なく実施でき、コロナ禍での業務継続についても、感染予防のマニュアル整備や環境整備、職員の健康状態の管理等速やかに対策・対応し、支障無く過ごせたと感じている。

しかしながら令和2年度の目標内容については未達成という評価になった。

ただしコロナ禍の影響なのか下表のとおり総合相談対応件数の急増し、その対応に追われた年度でもあった。そして、令和2年度枚方市の実地指導（包括的支援事業）では開設後の運営経過で最良の評価を更新する結果となり、その最たる要因としてはやはり職員の定着継続とチームワークの良さによる総合相談の適切な対応が大きかった。次年度も引き続き職員が連携し業務遂行に努めていく。

### <年度別総合相談総件数比較>

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
総合相談総件数	1628件	1920件	2280件↑

### 2. 指定介護予防支援事業報告

介護予防ケアマネジメント《介護予防支援計画（介護予防給付費）及び介護予防ケアマネジメント（枚方市の総合事業費）》件数については、前年度に比し対応件数はコロナ禍の影響と考えられるが、年間実績数では下表のとおり320件減少となった。ただし、卒業者等の追跡と介護予防対応が例年よりも手厚く実施できた。

### <介護予防支援計画・第1号介護予防ケアマネジメント実績/R2年4月～R3年3月>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11	12	1月	2月	3月
直プラン	124	125	130	124	128	129	133	133	136	130	134	136
委託プラ	173	171	181	180	182	177	176	174	176	172	174	171
Covid 請求		11	2	1	3	1	2	0	3	3	5	2
Covid 請求		7	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0

合計	297	314	315	305	313	308	311	307	315	305	313	309
----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

<年間プラン実績数>

	H26年 度	H27年 度	H28 年度	H29年 度	H30年 度	R元年 度	R2年度
直プラン 件数	1555	1505	1418	1439	1739	1697	1561
委託プラン 件数	1676	1919	2237	2347	2265	2291	2107
合計	3229	3424	3655	3786	4004↑	3988	3668↓

※参考 5 圏域高齢者（65歳以上）人口の推移

	平成23年1月	平成28年1月	令和2年1月
小学校区（高陵・中宮北・ 山田・山田東・交北）	6364人	7581人	7927人↑

社会福祉法人バルツァ事業会 曾津保育園 曾津保育園大宮分園

令和2年度事業報告書

法人所在地 : 奈良市鹿野園町1000番1号

施設所在地(本園) : 奈良市八条2丁目91番地

施設所在地(分園) : 奈良市大宮町2丁目1-17

1. 保育園の運営

(1) 定員(本園) : 140名 定員(分園) : 20名

(2) 一時保育 : 10名(ひまわり組)

(3) 年齢別・月別入所児童数(各月初日現在)本園

年齢 月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
0歳児	標準	8	9	10	11	13	13	14	15	15	17	17	17	159
	短時間	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
1歳児	標準	23	23	23	23	23	23	24	24	23	24	23	23	279
	短時間	2	2	2	2	2	2	1	1	2	1	2	2	21
2歳児	標準	23	23	22	22	21	21	22	21	21	21	21	21	259
	短時間	0	0	1	1	2	2	1	2	2	2	2	2	17
3歳児	標準	29	28	28	28	27	26	26	26	26	27	27	27	325
	短時間	1	2	2	2	3	4	4	4	4	3	3	3	35
4歳児	標準	28	28	27	28	29	29	29	28	28	28	27	26	335
	短時間	3	3	4	3	2	2	2	3	3	3	4	5	37
5歳児	標準	24	24	25	25	24	24	24	24	24	24	24	24	290
	短時間	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	10
入園		23	1	1	1	1	0	1	1	0	1	0	0	30
退園		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
園児合計		143	144	145	146	147	147	148	149	149	151	151	151	1771
延長保育	前延長	58	48	122	181	124	182	204	142	127	118	91	129	1526
	後延長	28	18	2	7	12	16	24	17	16	18	9	36	203
一時保育預かり		65	20	57	60	89	68	81	89	98	80	67	141	915

※延長保育 前延長7:45~利用、後延長19:31~利用済

年齢別・月別入所児童数(各月初日現在)分園

年齢 月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1歳児	標準	8	8	8	9	8	8	9	9	10	10	10	10	107
	短時間	2	2	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	10
2歳児	標準	6	6	7	7	7	7	6	6	6	6	6	7	77
	短時間	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	3
入園		11	0	1	0	0	1	1	0	2	0	0	0	16
退園		0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	4
園児合計		16	16	17	17	16	16	16	15	17	17	17	17	197

(4) 職員人員について

	園長	副園長	主任	保育士	常勤保育士	非常勤保育士	栄養士	調理師	常勤調理師	非常勤調理士	事務員その他	合計
4月1日在籍数	1	1	1	15	6(派遣2)	6(派遣2)	1				1	32
年間退職者				3	1	0						4
年間採用者				3		(派遣1)						3(派遣1)
3月31日在職数	1	1	1	14	6(派遣1)	6(派遣3)	1				1	31(派遣4)

2. 保育実施状況

<保育内容報告>

乳児期は養護を中心とした保育とし、幼児期は教育を中心とした保育とした各年齢に応じた保育カリキュラムで全体的な計画を作成し、保育を行った

<あいつ保育園大宮分園報告>

今年度は最終、2歳児7名、1歳児10名 計17名である

(4月以降、2歳児7名のうち3名は転園・4名は會津保育園へ異動する事となる)

※今年度につきましては幼稚園との行事交流は無。普段の自由遊び・避難訓練については参加

【障害児保育の取り組み】

<現状・対象児>

- ・診断がついている子どもは8名(5歳児:2名 4歳児:4名 3歳児2名(うち一名重度))加配保育士と個別支援を行いながら集団への取り組み参加できるようにしている
- ・保護者の方と家庭での様子や保育園での様子を踏まえ行事への参加方法を話し合う

<要観察児>

保育をする中で、気になる子どもがいる為、慎重に子どもの家庭や保育園の様子を情報交換する。保護者の思いに寄り添いながら子どもの発達に合わせて支援を行い、支援施設や制度を使いながら就学に向けてつないでいく

① 対応

- ・療育相談だけでなく、保護者の思いを組み入れながら日々の保育を行う。奈良市の巡回相談も定期的に行われている。支援施設の数も増えているが、利用数が多く受け入れ幅が狭い問題点は奈良市としても重要課題としている。

② 協力、団体 施設

S T→ 佃クリニック・フラーテル・ハッピーリング・

O T→ リハビリセンター・東大寺福祉療育病院・ラブリー・フラーテル・ハッピーリング・UT キッズ

<一時保育>

R2年度は緊急事態宣言もあり4月～6月までは人数制限を行っていたが、年間915名が利用された

(4) 外部講師の指導状況

英会話 体育教室 茶道(3月のみ) マーチング指導(5歳児のみ)

(5) 実施した特別保育事業状況

- ・延長保育促進事業・一時保育事業・
- ・マーチングカーニバル・お遊戯会(0.1.2歳児、りんご組)・生活学習発表会(3.4.5歳児)
- ・秋の遠足(5歳児) お別れ会(3.4.5歳児) お別れ遠足(5歳児)

#### 4. 健康管理状況

##### (1) 園児

内科 年2回 歯科 年1回 眼科 年1回 (3・4・5・歳児)

耳鼻咽喉科 年1回 (3・4・5・歳児) 検尿 (3・4・5・歳児) 身体測定 (毎月)

##### (2) 職員

定期健康診断 検便 インフルエンザ接種

#### 5. 非常災害危険防止等防災訓練の実施状況

避難・消火・通報訓練 (毎月)

#### 6. 地域団体・施設・住民実施した交流事業

・3月のみ 茶道教室

#### 7. 苦情処理受付状況

苦情受付件数4件 苦情に対する結果は改善・解決済み。

#### 8. 音楽研修

① ミューズ音楽研究所： 小林先生よりマーチングの研修を受ける (年間)

同音楽研修の集大成として、マーチングカーニバル (大阪城ホール) に参加

② ピアノスキルアップ講座： 主任はじめ講師を選出した。全職員のピアノスキルに応じて

課題を考え、午睡中に個々にあった方法を見だし練習し、この繰り返しを一年行った

今年度の対象者は2名。園の行事等が無かったため、普段の保育の中で積極的に弾いていた

また一年の集大成である生活学習発表会でも弾くことが出来た

#### 9. 保護者連絡

今までは紙ベースで保護者とのやり取りを行っていたが、R3年度よりコドモンを導入することにより携帯で連絡・お便り・請求などを行う。また、職員の書類 (指導案・計画など) コドモンにて管理する

#### 10. 今後の課題

R2年度1月より移転し保育園の広さも変わっている。良い点、課題のある点これから様々なことが出てくるため、安全第一を主眼に対応していきたい



# 令和2年度事業報告

會津生駒保育園

## 1. 総括

今年度は4月にコロナウィルス感染拡大防止のため、政府から緊急事態宣言が発令されたことにより予定していた行事のほとんどが大幅な変更や中止を余儀なくされました。このような状況下で、これまでと変わらず子ども達がいきいきと活動し、安全な環境の中、安心して過ごすことが出来るようにするためにはどうすれば良いかをその都度話し合い、密にならない工夫をしながら活動の幅を広げました。

また、全国的な保育士不足はますます深刻化しており、職員の確保のための取り組みもこれまで以上に必要ですが、在籍する職員が長く続けていけるような待遇面、環境面の改善が特に必要だと考えます。来年度は保育士との面談回数を増やすなど、相談や現場の意見の吸い上げを積極的に行うことでより良い職場環境になるよう、努力してまいります。

## 2. 保育園の運営

### (1) 令和2年度職員配置(令和3年3月31日現在)

施設長	1人
主任保育士	1人
副主任	1人
保育士	17人(常勤12人、非常勤3人、派遣1人)
保育補助	2人(非常勤1人、派遣1人)
嘱託医	2人(小児科 歯科)

### (2) 令和2年度の入所児延人数は次の通りでした。

0歳児 95人	1歳児 163人	2歳児 141人	
3歳児 132人	4歳児 144人	5歳児 156人	合計 831人

### (3) 実施した特別保育事業

1. 延長保育事業 延長保育の利用人数は延674人で、前年比95人の増加でした。
2. 一時預かりの利用者数は586人で前年度と比較すると407人減少しました。(コロナウィルス感染症拡大防止のため、人数制限を行った。)

## 3. 園児の処遇

園児の健康管理は毎月の身体測定と、年2回の内科検診を実施し、歯科検診は10月に実施。尿検査を6月に実施。視力検査を1月に実施した。また生駒市保健師による聴力検査を行い園児の健康管理を図った。

園児の栄養管理は給食会議を毎月開催し園、委託業者と連携し園児の栄養管理と健康管理に努めた。

#### 4. 職員研修

令和2年度の職員研修は内部研修を9回、外部研修は24回に合計20人の職員が参加した。(内リモート研修6回 11名参加)

養成校からの保育実習は10月、11月に3名の受け入れを行った。

#### 5. 防災・防犯

##### (1) 防災訓練

1. 児童福祉施設最低基準による避難・消火訓練は毎月実施した。
2. 消防法による消防訓練を生駒市消防署の指導のもと、6月に実施した。
3. 消防設備点検を7月、11月に実施した。

##### (2) 防犯訓練

1. 生駒市警察署員・生駒市防災安全課による安全講習を2月に実施した。
2. 生駒市防災安全課・交通指導員による交通安全教室を11月に実施した。(4.5歳児のみ参加)
3. 生駒警察による外部からの不審者侵入対応訓練を10月に実施した(ビデオ視聴のみの訓練)
4. 生駒警察署員・少年補導員による防犯紙芝居はコロナウィルス感染症予防のため中止となった。

#### 6. 地域との関わり

令和2年度の地域支援の取り組みは、園庭開放および親子教室を開催した。

拠点広場事業「すくすく」として地域の親子の場として保育室を提供した。

中学校からの職場体験はコロナウィルス感染症予防のため中止となった。

(1) 園庭解放 毎週月曜日 10:00~12:00(4月~6月は中止し7月から再開した)

(2) 親子教室 子育て中の保護者の皆様を対象とした親子教室を開催した。

開催月は、10月・11月・12月・1月・2月3月の第2・第4水曜日に開催した。

(※4月~6月はコロナウィルス感染症拡大防止のため中止した)

#### 7. 苦情解決

令和2年度の苦情は寄せられませんでした。

# 令和2年度 會津壱分保育園事業報告

## 1. 保育園の運営

### (1) 令和元年度職員配置(令和3年3月1日現在)

園長	1人	保育士	13人	保育補助	3人	嘱託医	2人
主任保育士	1人	非常勤保育士	4人	調理員(委託)	5人	シルバー	2人

### (2) 令和2年度の入所児童数の延べ人数 ※前年比57人減

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0歳	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
1歳	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
2歳	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288
3歳	24	24	24	24	24	24	24	25	25	24	24	24	290
4歳	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288
5歳	23	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	265
計	125	124	124	124	124	124	124	125	125	124	124	124	1491

## 2. 職員研修・健康管理

### (1) ○外部研修への参加

子育て	保健	接遇	人権	熱中症	救急	保育		
2回	2回	中止	10回	1回	中止	2回		

### ○キャリアアップ研修(専門リーダー6人・分野別リーダー4人)

乳児保育	幼児保育	障害児保育	食育・アレルギー対応	保健衛生・安全対策	保護者・子育て支援	マネジメント
7.5H2回-1人	7.5H2回-1人	7.5H2回-1人	7.5H2回-1人	7.5H2回-1人	7.5H2回-1人	7.5H2回-2人

### ○園内研修の実施

4月	0歳児保育 アレルギー・事故対応	8月	劇・合奏 ハラスメント	12月	乳児・幼児のあそび 障害児哺育
5月	ぐんぐんタイム 熱中症対策	9月	ピアノ・和太鼓 虐待について	1月	絵本読み方 嘔吐処理復習
6月	体育指導 プール・救命法	10月	幼児保育 保護者対応	2月	くもん・制作帳 事故防止(誤飲)
7月	絵画 夏の感染症	11月	竹馬・登り棒 嘔吐・冬の感染症	3月	園のしくみ・保育理念 環境構成

※職員会議(毎月)、各委員会会議(随時) 各会議の実施を行うことで保育を円滑に進められた。

### (2)職員の健康管理

○定期健康診断(年1回)を実施 ○細菌検査(年2回) ※乳児担当保士は毎月実施

○インフルエンザ対策として流行期前(11月)に予防接種を受けた。

## 3. 園児の健康管理・衛生管理

毎月	身体測定(全園児)	5月	歯科検診(2~5歳児)	2月	聴力検査(4.5歳児)
6,11月	内科検診(全園児)	10月	尿検査(3~5歳児)	3月	視力検査(4.5歳児)

## 4. 給食・おやつ取り組み 委託業者：名阪食品株式会社

月1回の給食会議を行い、献立改善、行事食提案等、安全、安心、楽しい食事の提供が出来た。

## 5. 地域との関わり

### ○保幼小交流会(壱分幼稚園、いちぶちどり保育園、壱分小学校)

8月	今年度の活動打ち合わせ	11月	なかよし秋まつり(壱小)	3月	ドッチボール大会(ちどり保育園)
10月	みんなで交流会しよう(壱幼)	1月	活動の振り返りと来年に向けて	3月	
10月	校内探検・給食体験(壱小) 校庭でドッチボール大会(壱小)	2月	図書室見学・校長先生のお話会		アプローチャカリキュラムについて

○汽車乗車体験(10月)4.5歳児

○地域の行事 どんどこ祭り(8月)年長児22名 いこいこまつり(11月)年長児名

○職業体験受け入れ(11月)南中学校3名、大瀬中学校3名

※上記は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止

○施設見学

8月	6人	10月	3人	12月	1人
----	----	-----	----	-----	----

(関西保育福祉専門学、武庫川女子大、白鳳短期大、聖和短期大、奈良佐保短大他)

## 6. 苦情対応

○ご意見BOXによる苦情や要望0件

## 7. 事故・災害への危機管理

(1)各種訓練の充実を図る ※各関係機関と連携し訓練を行う

毎月	避難・消火・地震訓練	8月	消防通報訓練	2月	消防通報訓練
7月	不審者対応研修	10月	交通安全教室	2月	防犯教室

(2)保育環境の整備

○ポータブル電源購入 ※機能強化費補助金にて対応

○2階ホール空調設備増設工事 ※熱中症対策補助金にて対応

○オールチタン抗ウイルス施工 ※新型コロナウイルス感染症補助金にて対応

○コドモン(教育施設向け事務作業支援システム)の導入

## 8. 実施した特別保育事業

(1)延長保育事業 午後6時30分～午後7時30分 ※前年比120人増

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
52	22	157	212	148	181	171	186	226	217	204	250	2026人

(2)一時預かり保育事業 月～金：午前8時30分～午後4時30分 ※前年比463人減

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
半日	8	2	0	19	17	23	21	12	12	14	28	44	200人
1日	28	24	31	35	24	25	47	58	62	50	62	87	537人
延べ	36	26	31	54	41	48	68	70	74	64	90	131	737人

(3)心身障がい児保育事業

3歳児クラス2名(加配保育士1名)\*障害の程度や年齢からみて加配の配置を行った。

(4)子育て支援拠点事業(こもれびひろば) 毎週：月・水・金9:00～14:00まで

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
組	0	0	0	7	3	11	18	18	5	8	21	17	118組

※4.5.6月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休業

(5)親子教室(0歳コース毎月第2金曜日・1.2歳コース毎月第2水曜日) 10:00～11:00まで

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0歳	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	2	8組
1.2歳	0	0	0	0	4	3	4	4	3	5	3	26組

※4.5.6月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休業

## 9. 総括

新型コロナウイルス感染症が国内外を問わず世界的なパンデミックにより猛威を振りこれまでにない日本社会の状況になりました。休園や登園自粛の措置が取られる中でも園児に出来るだけ多くの経験をさせたいと思い、十分な感染予防対策を講じて保育活動を行いました。また、園外活動についてはほとんどが自粛となりましたが、地域の保育園、幼稚園、小学校と連携を図り「保幼小交流」は実施に至りました。受け入れを縮小していた「一時預かり保育」については新型コロナウイルス感染症予防を行ったうえで従来に戻していきたい。次年度の保育活動は保育の簡素化ではなく存分に活動できるよう計画を立てていきたい。保育士不足の問題ですが、このような社会状況であったためか新卒保育士の確保がとて困難でありました。現職保育士の離職を防ぐことや、コドモン導入による保育士の業務の効率化をさらに進め、働きやすい環境作りに努めていきたい。